

ウィニングラン®ジャンボ

| | |
|-------------------------------------|-------|
| ■種類名：イプフェンカルバゾン・プロモブチド・ベンスルフロンメチル粒剤 | |
| ■有効成分：イプフェンカルバゾン | 5.0% |
| プロモブチド | 18.0% |
| ベンスルフロンメチル | 1.5% |
| ■化管法指定物質：イプフェンカルバゾン [第1種] | 5.0% |
| ベンスルフロンメチル [第1種] | 1.5% |
| ドデシル硫酸ナトリウム [第1種] | 1.1% |

| |
|----------------------------------------|
| ■登録番号：第24364号 |
| ■毒性：普通物(毒劇物に該当しないものを指している通称) |
| ■登録初年：2020.03.25 |
| ■性状：類白色細粒、水溶性パック入り 1パック50g |
| ■有効年限：3年 |
| ■包装：500g×20袋、1.5kg×6袋 20kg(担い手直送規格) |

【特長】

- 有効成分イプフェンカルバゾンがノビエの発生を長期間抑える。
- SU剤抵抗性雑草(ホタルイ、コナギ、アゼナ類)に有効。
- 水口施用にも適用があり、省力散布が可能。

【適用内容】(2024年11月末日現在)

| 作物名 | 適用雑草名 | 使用時期 | 使用量 | 本剤の使用回数 | 使用方法 |
|----------|------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|--------------------------------------|-------------------------------|---------|--------------------------------------------|
| 移植 水稻 | 一年生雑草 マツバイ ホタルイ ヘラオモダカ ミズガヤツリ ウリカワ オモダカ クログワイ シズイ ヒルムシロ セリ アオミドロ・藻類による 表層はく離 | 移植直後～ ノビエ2.5葉期 但し、 移植後30日まで | 小包装(パック) 10個(500g) /10a | 1回 | 水口施用 又は 水田に小包装 (パック)のまま 投げ入れる。 |
| 直播 水稻 | 一年生雑草 マツバイ ホタルイ ミズガヤツリ ウリカワ ヒルムシロ セリ | 稲1葉期～ ノビエ2.5葉期 但し、 収穫90日前まで | | | 水田に小包装 (パック)のまま 投げ入れる。 |

| イプフェンカルバゾンを含む 農薬の総使用回数 | プロモブチドを含む 農薬の総使用回数 | ベンスルフロンメチルを含む 農薬の総使用回数 |
|---------------------------|-----------------------|---------------------------|
| 2回以内 | 2回以内 | 2回以内 |

【効果・薬害等の注意】

- 必要量を購入し、できるだけ残すことなく使いきること。
- 本剤は雑草の発生前から発生初期に有効なので、ノビエの2.5葉期までに時期を失ないように散布すること。なお、多年生雑草は生育段階によって効果にフレが出るので、必ず適期に散布するように注意すること。ホタルイ、ヘラオモダカ、ミズガヤツリは2葉期まで、ウリカワ、オモダカ、クログワイは発生始期まで、ヒルムシロは発生期まで、セリは再生前から再生始期まで、シズイは草丈3cmまで、アオミドロ・藻類による表層はく離は発生前までが本剤の散布適期である。オモダカ、クログワイ、シズイは発生の期間が長く、遅い発生のもまでは十分な効果を示さない場合があるので、必要に応じて有効な後処理剤との組み合わせで使用すること。
- 苗の植え付けが均一となるように代かきをていねいに行うこと。未熟有機物を使用した場合は、特にていねいに行うこと。
- 本剤は小包装(パック)のまま10アール当たり10個の割合で水田に施用する。
- 投げ入れ処理の場合は、水の出入りを止め、水深5～6cmの湛水状態に保ち、湛水状態のまま田面に均一に散布すること。
- 水口施用の場合は、水口付近の水深を2～3cm程度に湛水した状態で、入水時に本剤を小包装(パック)のまま水口に施用し、流入水とともに水田全面に拡散させ、施用後田面水が通常の湛水状態(湛水深5～6cm)に達した時に必ず水を止め、田面水があふれ出ないように注意すること。

- 処理後、少なくとも3～4日間は通常の湛水状態を保ち、田面が露出しないようにし、処理後7日間は落水、かけ流しはしないこと。自然減水により田面の一部が露出するようになったら、水尻を止めて通常の水深になるまで静かに水を入れて水口を閉じること。
- 藻や浮草が多発している水田では、拡散が不十分となり、効果の劣る可能性があるため使用をさけること。
- パックに使用しているフィルムは水溶性なので、ぬれた手で作業したり、降雨で破袋することのないように注意すること。
- 以下のような条件下では葉害が発生するおそれがあるため使用をさけること。
 - ◆ 砂質土壌の水田及び漏水田（減水深2 cm/日以上）
 - ◆ 軟弱な苗を移植した水田
 - ◆ 極端な浅植の水田及び浮き苗の多い水田
 - ◆ 散布後に高温傾向が続くと予想される時
- 稲の根が露出する条件では葉害を生じるおそれがあるため使用しないこと。
- 除草効果が低下することがあるので、梅雨期等、散布後に多量の雨が予想される場合は使用をさけること。
- 本剤は、移植前に生育したミズガヤツリには効果が劣るので、物理的防除方法などを用いて移植前に防除してから使用すること。
- 本剤はその殺草特性から、いぐさ、れんこん、せり、くわいなどの生育を阻害するおそれがあるため、これら作物の生育期に隣接田で使用する場合には、十分注意すること。
- 散布田の水田水を他の作物に灌水しないこと。
- 本剤の使用に当たっては、使用量、使用時期、使用方法などを誤らないよう注意するほか、別途提供されている技術情報も参考にして使用すること。特に初めて使用する場合や異常気象の場合には、病害虫防除所等関係機関の指導を受けることが望ましい。

【安全使用上の注意】

- ❖ 本剤は水溶性フィルムで小包装化されているため、通常の使用方法ではその該当がない。ただし、濡れた手で触らないこと。
- ❖ 水溶性フィルム包装が破袋した場合は以下の点に注意すること。
 - 誤食などのないよう注意すること。誤って飲み込んだ場合には吐き出させ、直ちに医師の手当を受けさせること。
 - 眼に対して刺激性があるので眼に入らないよう注意すること。眼に入った場合には直ちに水洗し、眼科医の手当を受けること。
 - かぶれやすい体質の人は取扱いに十分注意すること。
- ❖ 保管：直射日光をさけ、なるべく低温で乾燥した場所に密封して保管すること。吸湿性があるので湿気には十分注意し、使い残りは外袋の口を強く閉じて保管すること。また、強く加圧されると包装材フィルムが劣化するおそれがあるため下積みにならないようにすること。